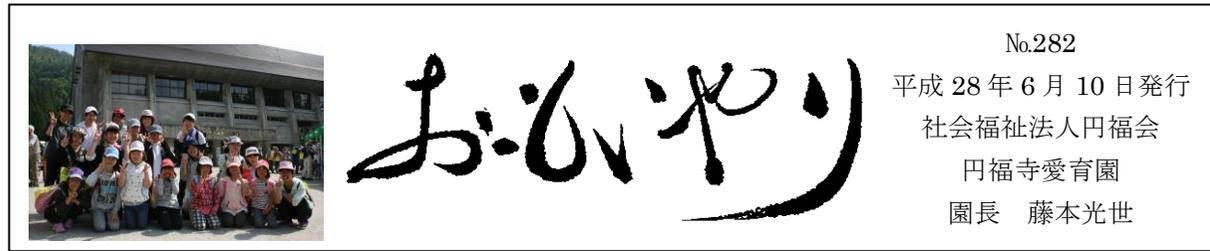


飯山市で開催された菜の花パノラママーチに、全員で参加しました。



新生円福寺愛育園

園長 藤本光世

私がこの仕事に就いて9年目に入りました。

愛育園の職員問題により、佐久長聖中学高校の校長を辞めてこの仕事に入った時、教員とは全く違う仕事で、分からないことばかりでした。ある施設長からさげすまれたように「あなたは進学校に勤めていたから、この仕事は無理だね」と言われました。分からないことには発言できませんから、当時の園長（私が園長に抜擢しました。30年以上この仕事をした人です。）や副園長（一人は、父母がお願いして来てもらっていました。もう一人は、前施設で100人もの応募者の中から選ばれた指導員と知らされて、すごい人なんだろうなあと思っていました。）の仕事を見ながら、口出しはできませんでした。わからないことの口出しは混乱するだけと思ったからです。でも、当時の児童はたくさんの万引きとか、対教員暴力で先生に怪我をさせるとか、学校へ行かないとか、他の子を宿泊させるとか、職員に暴力的な圧力を加えて、人の良い職員を辞めさせてしまうとか、大きな問題をたくさん起こしていましたから、私が前面に出ざるを得ない状況でした。

でも、その時に幹部職員は何をしていたのでしょうか。先生に暴力を振るって鼻血を出させてしまった児童の指導で、園長副園長と学校に行って校長先生に謝り、この児童の指導をどのようにするか話し合った時に、二人はどうしていいか分からないといったふうで何も言わないので、私が謝るまでは学校に行かせませんと発言したことを覚えています。だからこの子は中卒で当園を去り、捨て台詞で「何でてめえのようなやつが愛育園に来たんだ」を残したのでしょうか。

今振り返ると、この当時の幹部職員は児童の指導力がなく、嘘を言い、子どもに対する自分の立ち位置を良くすることに汲々としていたのです。

あれから満8年。愛育園は変わりました。私も、この仕事に分かってきました。職員のあるべき姿が見えてきました。外部の関係機関も、その考えと傾向が分かってきました。国の方向も、それに対する多くの意見も見えてきました。そして、高校の校長経験の上に、愛育園の経営を積み上げることができてきました。父が積み上げた愛育園の土台を生かすこともできてきました。そして大きな決断をしました。

新生愛育園。そのために二つのポイントがあります。

一つは、すべてをは子どものために、です。この仕事は、手抜きができる楽な仕事です。副園長が「あれで仕事ができちゃうんだから」とよく言っていました。その意味は、多くの職員が仕事をしているふりをして、本当はしていなかったのです。子どもが悪いことは、子どもの所為^{せい}にできるからです。もともと悪い子だから、そういう子だから、仕方がない、と職員が仕事をしていないことを棚に上げて、理由を子どもに預けるのです。平成の初めに、大きな事件が二つ起こっています。その時、職員は子ども達をどのように指導をしていたのでしょうか。愛育園の職員の雰囲気はどうだったのでしょうか。ハインリッヒの法則が示すように一つの大事件の裏には29のヒヤリハットがあり、その裏には300の汚れた風土があるのです。だから、職員は常に業務を見直し、「子どものために」を合言葉として、汚れた風土を戒めあって、自らを省みて仕事をしなければならないのです。「子どものため」と言いながら実は「自分のため」であることがいかに多いことか。だから仕事をごまかし、隠ぺいし、取り繕うのです。「愛の花園」に真実を書き遺すことも、「おひやり」に真実を書くことも、私があらゆる矢面に立って闘うのも、すべては子どものためなのです。絶対に、自分に妥協しない、その信念で闘っているのです。だから、この闘いに水を差すような方は、美辞麗句を並べ、たとえば軍隊のようだとか子どもを強制していると悪口をいい、こんなに書いて良いのかと足を引っ張り、攻撃したとしても、子どもの人生をめちゃめちゃにして次世代、次次世代までその影響を残すことに対する心の傷み、絶対許せないという責任感や使命感は感じられないのです。子どものためと言いながら実は真実から逃げて自分を守っているのです。

もう一つは、地域に開かれた施設です。

父が戦前戦後に円福寺を使って横田仏教子ども会を開いたことが礎となって、円福寺愛育園ができ、村の子どもも園の子どもも一緒に遊んで育ったことから分かるように、横田と円福寺愛育園は太い絆で結ばれています。地域の皆様は園の子ども達を見守ってくださいます。園の子ども達も村の行事に積極的に参加して、交流しています。

国は家庭的養護や小舎制にすれば地域と結びつくと書いていますが、そんなことはありえないのです。長い歴史の中で、地域とのつながりを深め、信頼を得るしかないのです。

今年は、これをさらに一歩進めて、地域の子も達ともっと深く交流します。それが円福杯球技大会です。幸い、仏さまのお導きのように、少年野球の大指導者の日詰邦久さまが応援して下さることになりました。勝ち負けと言うよりも、挨拶や礼儀そして後片付けなど、心の立派さを競おう。そして、愛育園の児童がこんなにも立派であることを地域の皆さんに知ってもらおう。そう呼びかけると、大賛成して下さり、お昼にはみんなで入り乱れてトン汁を食べよう。そう提案して下さいました。大賛成です。檀家の柳澤健司さまには卓球で連携していただき、関係者を紹介していただくとともに大会の実行委員に就任していただきました。

こうして、今度は愛育園の子ども達があんなにも立派であることを、子ども達の姿を通して地域

の皆さんに知ってもらい、地域子ども達も交流して肌で感じてもらい、愛育園が地域の子育てセンターになるのです。この、子育てが難しい時代にあって、こんなにも立派な子が育つことを知ってもらうことは、保護者の皆さんにとって子育てを見直す機会になり、それは、立派な子を育てることにつながり、子どもにとっても保護者にとってもこんなに幸せなことではないのです。

こうして、愛育園は子どもの養育に全力を注ぐことができるようになりました。どのくらいできるか、どのくらい立派な子どもが生まれるか、それはどうか温かく見守って下さい。

一つだけ、具体的なことを書きたいと思います。これまで、愛育園の子ども達は汚れた汚い車に乗っていました。私が入った平成 20 年度は、セレナは錆びが入ってボディは凹んでいました。ラフェスタもフェンダーなどが凹んでいました。ボディは光沢がなくて、くすんでいました。もう一つの軽は、乗れるだけましと言った感じでした。どの車も車内は泥がこびりついてひどく汚れていました。愛育園の子どもだから、社会が税金で育てている子だから、家庭の車より汚れていても、傷んでいても、古くてもボロボロでも、良いんだと言ったふうでした。そんな車に乗るのですから、子どもたちも車を汚すことを何とも思っていないでいました。そんな心の状態でした。それを、3 年かかってすべて新車にしました。ポクシー、ラフェスタ、そしてフリードです。すべての車はピカピカです。子ども達は毎週土曜日に洗車をします。車は汚れなくなりました。凹むこともなくなりました。家庭の車より立派になりました。そして、スキー合宿ができるようになりました。今年は、もっと凄いことを計画しています。今は秘密です。

家庭の子より、もっと豊かに、もっと過ごしやすく、もっと立派に、施設の子は憐れみの対象ではない。これは藤本幸邦初代園長の願いでした。それが今始まっている。それを私は嬉しく思っています。

野沢温泉・菜の花ウォーキング

副園長 青谷 幸治

去る 5 月 14 日、野沢温泉・菜の花ウォーキングに参加しました。小学生 15km、中高生 25km とそれぞれ職員も引率し全員で完歩できることを目標に取り組みました。

10 日前に中高生は「牛に引かれて善光寺詣り」で 30km を全員で完歩しました。

今回も愛育園全員で完歩したいと思いで望みました。野沢温泉の地形からもアップダウンが激しいコースで歩くのにも苦労しました。しかし子どもたちと職員が同じ目標をもち、道中もおしゃべりをたのしみながら、励まし合いながら歩いていました。休憩中に遠方から参加された 2 人組のおば様から「子どもたちの笑顔が素敵」。子どもたちにも「先生の言うことをしっかり聞いてやっているように見える」と話しかけていただきました。子どもたちが素直に純粋に育っているからこそ、社会の中に一步踏み出し多くの経験につながると思いました。そして、子どもたちの表情からおば様から出た言葉が素直な感想であり、子どもたちの心に響いたと思います。施設内の大人との関わりだけでなく、社会の目でしっかりと子どもたちを見ていただき、評価され子どもが成長している

と思いましたが。職員にとって苦しかったウォーキングも子どもたちには楽しくハイキングのようなものでした。結果は全員で完歩することができました。達成感と思い出で子どもたちも一回り成長した感じがしました。これからは社会の中で子どもたちを自立させ立派にできる養育を目指していきます。



菜の花パノラママーチ

保育士 渡邊梓

5 月 14 日に野沢温泉村で行われた、菜の花パノラママーチに参加しました。このウォーキングは愛育園で初めての参加で、子ども達は何日も前から、どんな場所を歩くのだろう、ゴール出来るかな等、楽しみと不安でいっぱい



様でした。当日は天気も良くウォーキング日和でした。みんなが楽しみにしていたコースは、けもの道の様な細く足場も悪い道や上り下りも多く、スタートしてすぐ息が上がってしまう様な大変なものでした。そんな中、子どもたちの中から「ここ危ないから気を付けて」、「休憩まであと少しだ、頑張ろう」、「脚大丈夫？ゆっくりでいいよ」

などと周りを気遣う声掛けや、励ましあう言葉が聞こえてきました。私は、自分も同じ疲れを感じている中で、相手を思いやれる子どもたちが素敵だなと思いました。普段の生活の中で歩くことのない道、見ることのない景色を見ながらのウォーキングは子どもたちにとっても新鮮だった様で、風が気持ちいいね、山の緑が濃いね、空気おいしい、と自然を肌で感じ、言葉にしている子どももいました。パノラママーチに参加して、改めて、子どもたちの最後まで諦めない気持ちや、周りを思いやれる心を知りました。25km を励まし合いながら全員で完歩することができ、子どもたちにとっても最後までやりきる力、諦めない気持ち、思いやる心がより一層大きく成長したのではない

かと感じました。

菜の花パノラママーチ 児童感想

5月14日にウォーキングをやりました。私は15キロ歩きました。15キロは愛育園から学校までを15回だと聞いていたので、楽勝だと思っていたけど歩いてみると大変でした。たくさんのお花が咲いていました。菜の花はほとんどなかったけど、毛虫やカエルがいました。坂道も結構ありました。登るのがすごく大変でした。ゴールに近づいて来た時上原先生と手をつなぎました。たくさん歩いたので足首が痛くなりましたが、楽しかったのでまた行きたいです。(小3 U・S)

今日はウォーキングに来ました。色々な人が来ていました。県外から来た人もいました。私は15キロ歩きました。私はほとんど先頭で歩いていました。途中で休憩もありました。地図を見ながら歩きました。私は15キロは短いと思っていたけど、歩いてみたらとても長かったです。足がとても痛かったです。最後ゴールした時にいろいろな人に「がんばれ」などと言われたので、ちゃんとゴールできました。来年は中高生と一緒に25キロ歩きたいです。(小4 S・Y)



牛にひかれて善光寺ウォーキング

主任保育士 石崎 早織

5月4日に子ども達と牛に引かれて善光寺ウォーキングに参加しました。去年も参加させて頂き、今回で2回目になります。この行事は中学生からの参加にしていますので、去年小学校6年生の子どもは初めての参加になります。どのコースを歩くのか、30キロという長い道のりは今まで歩いたこともありませんので、不安に感じているかな？と少し心配でしたが、そんな不安などまったくなく「早く歩きたい～!!」という声が聞こえてきました。当日は天気も良く、歩くにはもってこいの天気でした。スタートしてからひたすらサイクリングロードを歩きます。最近子ども達は部活に勉強、バイトにと忙しい子どもが増えてきていますので、なかなかゆっくり話す時間がありませんでしたが、一緒に歩きながら、部活の事、学校の事などたくさん話をすることができ、



みんな毎日頑張っているのがとても伝わってきました。

さて、どんどんとサイクリングロードを歩いていくと愛育園の近くにさしかかって来ました。愛育園の近くが休憩所になっていた為、園でお留守番をしていることが応援に駆けつけてくれました。みんなの顔を見るとホッと、疲れがあつという間に吹き飛んでいくのがわかりました。応援の横断幕もありありがとうございました!!

みんな楽しく歩いていると30キロなんて本当にあつという間で、全員で完歩することが出来ました!!楽しい時間を子どもと一緒に過ごすことができ、本当に良い時間を過ごすことができました。

「牛にひかれて善光寺参り」

天候にも恵まれた牛にひかれて善光寺参り。参加した中高生の子どもたちは出発前の朝食時から元気いっぱいでした。子どもたちから余裕を感じ、さらに参加することを楽しみにしていた私は「30キロ」の道のりがどれほどのものか想像もついていなかったため、子どもたちとおしゃべりしながら歩けば大丈夫!とっていました。

スタートを切り、土手沿いに歩いていくと山がはっきりと見え、緑がまぶしいのどかな風景が広がり、清々しい気分でした。一緒に歩いていたSさんは何度も「きれい!」「すごい!」と歓声を上げ、時に歌を歌うなどして景色を楽しんでいました。また、歩きながらSさんといろんな話をしました。部活のこと、趣味のこと、学校のこと・・・Sさんから話題が尽きません。歩きながらずっと話し続けるSさんに「疲れた」という気持ちは打ち消されていました。私が励ますより、むしろ励まされていました。Sさんだけでなくほかの中高生たちも、弱音を吐かず頑張っている姿、先頭を歩くぞと張り切っている姿など知らなかった一面をたくさん見ることができました。

そして、完歩できたときSさんから「一緒に歩いて良かった、ありがとう。」と言われたときはとてもうれしくて、参加して良かったなと心から思いました。それと同時に「こちらこそありがとう」という感謝の気持ちでいっぱいでした。来年もぜひ参加したいです。

牛にひかれて善光寺参り 児童感想

今年初めて「牛に引かれて善光寺参り」に参加しました。その中で私が達成できるように頑張った事が2つあります。一つ目はすぐに弱音を吐かないように頑張るです。理由は弱音を吐いてしま



まごころ保育士 竹内早季



<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

うと周りの空気を乱してしまったり、他の人が嫌な気持ちになるからです。あとは自分の弱い心に負けてしまうような気がしたからです。二つ目は途中で諦めないことです。理由は一つの事をやり切れば自信が持てて、これからは役立つと思ったからです。30キロは自分が想像していた距離よりも長かったのですが、完歩することができて良かったです。来年も30キロ完歩出来るように頑張っけて体力をつけたいです。(中1 A・T)

五月。愛育園の先生と中高生で牛にひかれて善光寺参りに参加しました。30キロ歩くことは去年も経験しましたが、やっぱり今回も心配になりました。ですが、周りの中高生の意気込む姿に背中を押され、竹内先生と話しながら歩き始めました。その日は晴れていて山がくっきり見えました。道の両側には水が張られた田んぼもあり、見ていてとても楽しかったです。先生と話しながら歩き、いつも話せないようなことや、趣味の事や学校の事を話したり、逆に先生のことも聞けました。30キロは長く、足や腰がとても疲れたのを感じたけど、完歩した時は達成感に満たされ、「来年もみんなと歩きたい」と思いました。(高1 S・Y)



ステーキホーム食

主任保育士 石崎 早織

愛育園では食堂に子ども達の誕生日表が壁に貼ってあります。毎年さまざまな食べ物をモチーフに誕生日表が作られます。今年もおいしい食べ物がたくさん並ぶ中、2月の誕生日表に大きなステーキの壁面が飾られていました。壁面を見るだけでもとてもおいしそうですが、子ども達の中にはステーキを実際食べたことのない子もいて、どんな味なのかな？と想像は膨らむばかり……。そんな中園長先生に子ども達の気持ちが伝わったのか、「よし！！ステーキをみんなで食べよう！！それも鉄板も買って、ナイフとフォークも揃えてみんなで外で食べよう！！」というお話があったのです。子ども達はとても喜び、今か今かと楽しみにしていました。そして当日……。とてもボリュームのあるお肉を龍堀様からご寄付をいただき、みんなでバーベキューコンロを出し、アツアツのうちにおいしいお肉を食べる為、お肉を焼く人、お皿を運ぶ人、火加減を見る人などなど、中高生男子を中心にステーキホーム食がスタートです。初めてナイフとフォークを使う子ども



(平成 28 年 6 月 10 日発行 月刊「円福」479 号付録 昭和 52 年 5 月 25 日第三種郵便物認可)



には持ち方から説明。みんな一生懸命ナイフとフォークを使いこなしおいしいお肉が食べられ大満足！！「先生、すごいおいしい〜！！」「こんな厚いお肉見たことない！！」などたくさん感想を子ども達から聞きました。どの子も満面の笑みを浮かべながら、周りの子と「おいしいね〜」と話しながら食べており、本当に楽しいホーム食になりました。

子ども達の為にたくさんのお肉をご寄付していただきました龍堀様。本当にありがとうございました。

ステーキの色々な美味しさ

あおぞらホーム 石黒玄章

園長先生の、鶴の一声から始まったステーキ食。事前に鉄板からナイフやフォークも準備し、炭火で焼く本格的スタイルは、一般の家庭でも中々経験できない事と思います。前日、職員と子供で準備をしますが、皆楽しみも相まって和気あいあいと準備が整いました。

当日、私は午後からの勤務のため皆と一緒に参加することは出来ませんでした。出勤すると、私の分も有るので夜に食べてくださいとの事。てっきり焼いたものを温め直して頂くと思いきや、部活やバイトで食べられなかった子にも焼きたてを食べてもらうので、置き火は取って有ります。焼きたてを食べて下さいと言われました。頂けるだけでも嬉しいのに焼きたてとは、待ち遠しく夜を迎えました。

勤務を終え、丁度部活から帰園したT君と一緒にステーキを炭火で焼いてくれました。綺麗なお月さまが辺りを照らし、幻想的な雰囲気の中、焼けた鉄板の上にジュージューと音を立てたお肉が出されると、ここがいつもの愛育園とは思えない空気が流れています。美味しいお肉を頬張りながら、数人の職員や児童をまみえ、連日朝早くから夜遅くまで部活に青春をかけるT君と普段中々話も出来ない中、部活で起こっている事や、進路の事、生活の事など色々な会話をすることが出来ました。甲子園を目指しながら進路を考える姿に、お肉のスタミナと合わせ逆に力ももらいました。園の子供を始めとする多くの未来有る子供のために、私の出来る事を煌々と照らすお月様にお誓いました。

園長先生の願いから、今回のステーキ食はただ美味しいお肉を食べると言う事だけでは無く、本物を味合わせたい。その気持ちを知ってもらいたい。と言う願いは隅々まで伝わっていたように感じます。多くの人のお陰さまで、最高の時間を過ごすことが出来ました。有難うございました！



ステーキホーム食

調理員 宮沢 まき江

5月21日初めての試み、ステーキ食が行なわれました。4月に園長先生より子どもたちとお話があり、なんとステーキ！と思っていた所、本格的にステーキ皿、ナイフ、フォークで食べさせたいとの事で一式購入して頂き、調理ではどの様な手順にしたらよいか試行錯誤しました。



前日はステーキ皿の鉄板を一枚一枚焼き、油で処理し、ナイフ、フォークを洗い準備万端！当日は10時頃から外では数名の男児と先生方が3台のBBQコンロの火起こしをしてくださいました。

厨房内では、ステーキ皿をあたため外で焼けた肉を乗せるスタンバイをしていました。外には新しいテーブルとイスが用意され、子どもたちが席に着くと同時にジュージューと音をたてたステーキが配られ、みんな満面の笑みでナイフ、フォークを上手に使いこなしながら口に運んでいました。

とても心温まる光景に幸せを感じる一日でした。

【母の日】

まごころ保育士 小林 礼

5月8日の夕食時、何やら子供たちはソワソワして落ちて着きがありません。男性職員も落ちて着きがありません。一体どうしたのだろう？何かあったのかな？と不思議に思っていると女性職員が全員前に呼ばれました。それぞれ代表の子供たちが、綺麗にラミネートされ上手なイラストの描かれた寄せ書きと手作りのプレゼントを渡してくれました。「今日は母の日ということで、いつもお世話になっている先生に感謝の気持ちを込めてみんなで用意しました。」私はまさか自分が母の日に贈り物を受け取り感謝される立場にあるとは思っていなかったもので、本当に驚き感動いたしました。思い返してみるとここ一週間ほどやけに職員が部屋に入るのを嫌がったり、廊下の途中で足止めのような不自然な会話を振ってきていたあの行動が腑に落ちました。子供たちはこっそり母の日の準備をしていたのです。私は今年の4月からこの愛育園にきて、わからないことのほうが多い状況の中で自分自身子供と一緒に成長していこうと固く胸に誓いお仕事をしていますが、この母の日の贈り物を受け取りより一層子



供たちのお母さんという存在にふさわしい人間になるため努めていこうと改めて決心いたしました。夕食後、子供達は準備の時どうだったか、プレゼントはどうやって用意したか、ばれそうでヒヤヒヤしたなど口々に嬉しそうに話をしてくれました。人を喜ばせようと思うあたたかい心を子供達一人ひとりから感じ、私はとても嬉しく思い、5月8日は私にとってかけがえのないとても素敵な一日になりました。

「母の日のサプライズ」

調理員 窪田 霞

愛育園に勤め早くも半年になりました。仕事にもだいぶ慣れました。毎日楽しく調理の先生方とお仕事させていただいています。何より一番嬉しいのはこの前の母の日に子どもたちからサプライズで素敵なプレゼントをもらったことです。みんなに手渡しされた時、本当にうれしかったです。すごく幸せな気持ちになりました。



カードに「先生、愛育園に来てくれてありがとう。」「先生、いつもおいしいご飯をありがとう。」ひとつひとつの言葉がだんだんみんなの笑顔に見えてきました。私はその一人一人の笑顔に本当に癒され楽しい時期を過ごさせていただいています。

子どもたちの笑顔のためにも、私は、愛育園でこれからもっと自分の立場を考え、出来ることを尽くし、調理の先生方と協力して頑張っていきたいと思えます。

スポーツゴミ拾い

保育士 近藤 典雄

5月15日長野市でスポーツゴミ拾いの大会がありました。愛育園でも小学生と中高生の混合チームでこの大会に参加しました。

大会の約1月前に青谷先生からゴミ拾いをする大会があるから参加してみないかと誘われ、何人かの児童に声をかけました。みんな大会の参加を快く引き受けてくれました。

大会当日、受付を済ませて大会が始まるのを待ちました。スポーツゴミ拾いの他にもさまざまなイベントも行われていて。待っている間はそのイベントを見て待ちました。大会には33チームが参加し全チームがまず集まってルール説明やそれぞれのチームが意気込みを発表しました。私達も一番年長の児童の掛け声で「がんばるぞー」と大きな声で気合を入れました。

そして、いよいよ競技スタート競技は一時間のうちでどのくらいのゴミを拾うことができるかを競います。スタートの合図を聞いてそれぞれのチームが一斉に動き出しました。私達も街に出てゴミ拾いを開始しました。みんな我先にと歩きだしゴミを見つけては拾っています。街中には煙草の吸殻や空き缶、ペットボトルさまざまなゴミが落ちていました。子供たちも段々とゴミを見つけてるのが楽しくなってきたのか「こっちの道に行ってみよう」「自販機の下にゴミが多いよ」など意見がでてきました。一時間の競技はあっという間に終わってしまいましたが、たくさんのゴミを拾う

ことができました。

そして競技の結果発表と表彰式があり結果は33チーム中14位でしたがみんな頑張ってゴミ拾いが出来たと思います。終わった後には子供の中から「こんなにゴミが街に落ちてると思わなかった」という子もいました。また来年も参加してたくさんゴミを拾いたいと思います。

花御堂づくり 保育士 上原美恵子

5月5日お花祭りに、小学生が中心となって花御堂づくりを行いました。毎年お堂の屋根に花びらを貼って作りますので、最初に皆でお花の花びらをむしって準備をしてお寺に向いました。地域の小学生も集まり早速花御堂づくりを始めました。

以前は全く人のことを考えずに我先にと貼りがたがる子供の姿があり悲しく思っていたが、今回はそうした自分勝手な行動をする子は一人もなく皆で協力しながら楽しくお堂づくりが出来ました。その後園長先生からお釈迦様誕生についてのお話をいただきました。お釈迦様は生まれてすぐ

どうしたかな？何で甘茶をかけるのかな？等問いかけられ子供たちはとても興味深げに聞いていました。奥様や父兄の皆さんにお茶会の準備をいただき、甘茶をいただきながら、おいしいお菓子をいただきました。今はこうした機会が一般家庭ではなかなか体験できませんが、園の子供たちは甘茶の味と一緒に良い思い出になったと思います。

創立記念日 あおぞらホーム 保育士 佐々木 弘観

5月5日は円福寺愛育園の創立記念日です。昭和23年の5月5日に初代園長先生の藤本幸邦老師が創立され、今年で68年目を迎えました。

当日は「牛に引かれて善光寺参り」を行っていたため、翌日5月6日の夕方に皆でお寺へ行き、般若心経をみんなで声を合わせて読み、その後お釈迦様に甘茶をかけて、お花祭りと合わせてお参りをしました。

お参りが終わると、園長先生から当時の愛育園の様子のお話をいただき、愛育園に戻りました。調理の先生達に豪華な夕食を用意していただき、皆で美味しくいただきました。

園長先生からのお話をいただき、68年という歴史の重みを感じ、また、愛育園をお支えていただいている皆様に感謝をし、子ども達、職員一同ともに成長していきたいと思っています。



東中との懇談会

あおぞらホーム 保育士 佐々木 弘観

5月25日に、篠ノ井東中学校との懇談会が行われました。今年度は2名が新たに篠ノ井東中学校へ入学をし、7名が通っています。学校の先生方より「どの子も非常に頑張っている姿が見られ、普段の生活からきちんと出来ている事が分かる。」とお褒めの言葉をいただきました。

部活、授業、清掃などの様々なお話をいただき、私達職員が普段見ることの出来ない生活面でも、どの児童も頑張っている様子をお伝えいただき感心しました。

ある子は、任された清掃分担を毎日ゴミ一つ無いまで徹底的に掃除をしてくれていたりと、ある子は積極的に授業で発言をして分からない所を無くそうと努力していたりと、ある子は部活動で一生懸命取り組む姿が見られるなど、沢山の頑張っている姿のお話をいただきました。

今年度は3名の受験生がいます。現在どの子も高校受験に向け毎日一生懸命頑張っています。部活動では最後の大会を控え、園の生活に、受験勉強、非常に忙しい生活ですが、自分の将来に向かって頑張っています。そんな子ども達の夢を全力でサポートできるように、職員一丸となって勤めていきたいと思っています。

復興のひまわり種蒔 典雄

保育士 近藤

5月21日、今年も復興のひまわりの種蒔を行いました。今年はミニグラと管理棟の花壇に種を蒔きました。一か所にひまわりの種を4、5個、1センチほどの穴を空けて、20センチ間隔で蒔いていきました。子供たちも我先にと種をもらいに来て楽しそうに蒔いていました。

ミニグラの種蒔が終わると管理棟に移動してこちらにもひまわりの種蒔をしました。最後に水をあげました。

種蒔を終えてみんな集まったところで毎年ひまわりの種を蒔いている理由を聞いてみました。みんな東日本大震災が起こった後に青谷先生が頂いてきたひまわりの種だと説明してくれました。今年も大きな花をたくさん咲かせたいと、言っています。これから夏に向けてしっかりと水やりをやって元気な花を咲かせたいと思います。

今年の作付け

園務 青木 稔七

今年は幼児さんが幼稚園に行き、植え付け等出来なくなりました。夏野菜のきゅうり、トマト、ナス等は植えました。じゃがいも、サツマイモも植えました。去年は焼き芋大会には大きすぎたので今年は連作にし、小ぶりの芋を作りたいと思っています。いつもの年より暑い日が多いので今から水不足が気になります。

休みを利用してみんなで収穫したいと思っています。ワイワイおしゃべりをしながら楽しんで時間がありましたら、畑に野菜を収穫に来て下さい。採り立ての野菜はおいしいですよ。

